

「保育所 保育指針改定について」

H.31. 2. 16 (E)

どの時代でも、年月が経てば、改めていかないと合
われない問題があります。この度の保育指針もそのひとつ
でしょう。

0~2歳児を中心として利用する家庭が増加している事、
物資は豊かなのに子どもたちの貧困の増加、さらには
いじめ、虐待の現状。ニュースで多く目にします。

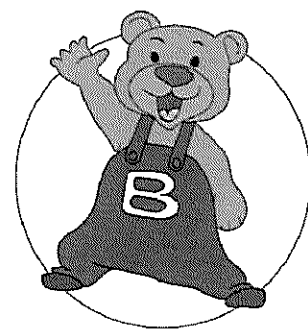
今回、箕輪潤子先生のお話を聞いて、いかに子どもたちの
育つ環境が大切か、かかめる大人の資質が重要か、という
ことを感じました。

AI(人工知能)は確かに素晴らしいです。でもそれを考え出し
たのは人間です。いかに協調して、生活向上できるのかを、
担うのはやはり「人」です。その基本となる「認知能力」「非認
知能力」等々、保育は、礎を築くとても大切な役目を持っ
ています。なぜに改定されなければならぬから、このかかあ言葉に
より理解できました。

ありがとうございます。



ワークショップをする中で、1つの写真を見るだけでも、色々な見方があるんだなと勉強になりました。3つの視点から見ると、また見方も変わってくるんだなと思いました。10の姿からも、勉強になることが沢山ありました。自分の視点と人の視点では、また違った見方があり、色々な意見が聞けて面白かったです。普段中々日々の保育を振り返るのが難しかったりするのですが、また一つ勉強になり、良かったです。他者との意見交換ができるワークショップはとても良かったですなと思いました。



「保育所保育指針改定について」講演 感想

保育所保育指針の改定ポイントをわかりやすく教えて頂きました。また、一人ひとりの子どもの育ち、主体性がとても大切であり、その為の保育の指針であることがわかりました。

先生のお話の中で何度も出てきた「非認知能力」。意欲や関心を持って粘り強く取り組むことが出来る力が「生きる力」になること。そしてその基礎を作る乳幼児期はとても重要な時期と分かりました。小学校の先取りをするのではなく、幼児期の体験や遊びの中でやってみたい、挑戦したい、一緒にしたい、困ったときのどうするか等の力をつける事が大切だと思いました。

今回は、ワークショップまで参加させていただきました。難しいところもありましたが、1つの写真（動画）を見てみんなで意見を出し合うと、「同じ意見だな」とか「私と違うけど、そういう見方もあるな」「そんな奥深いところまで感じ取っているんだ」とか、1つの遊びでもいろいろな育ちが重なり合っていて、子どもの育ちの奥深さなどとても勉強になりました。と同時に、子どもの育ちは、いろいろな角度から見る事が大切であると思いました。私は保育士ではありませんが、先生たちと同じ目線で子どもたちを見守ることが出来るよう勉強していきたいと思っています。

ありがとうございました。



子育てひろばの講演会 について

保育所保育指針の中の非認知能力を伸ばしていく保育のあり方の
重要性を改めて感じると共に、日頃の保育の中で、しっかりと育っているか
考えながら、これから保育に生かしていけたらと思った。

また、ワークショップの中で、写真や動画をしながら、子どもの
育してほしい10の姿が、どうあてはまっているか、というのは、

観る人によっては考え方やとらえ方が違ってくるので、様々な考え方が
あると感じた。また、周りの人と話し合っ中で、視点の違いなど
意見交換も出来たので、園内、クラス内でも、時には

このような機会をもつて、10の姿がどの位満たされているのかを
振り返りながら保育が出来ると良いのではと感じた。



今日、箕輪先生のお話を聞かせていただき、1番印象に残っていることは、写真や映像を見て、10の姿について考えるお話でした。実際にグループに分かれて話し合う中で、先生方それぞれの見方があり、自分とは違った考えや意見を聞くことができました。

また、今回の話を聞かせていただきから、今、自分が担任をしているクラスの子どもたちは、幼児期が終わるころにはどんな姿になっているのだろう、と考えるようになりました。先生がおっしゃっていた、「全ての10の姿が大きな丸がつくことが正解ではない」という言葉がありましたが、それぞれ個人差はある中でも、できるだけ、10の姿が育つような働きかけを今のうちから徐々にしていってあげたいと感じました。日々の保育の中で、意識できるようにできたらと思います。

今回は講演会に参加させて頂き、ありがとうございました。



保育所の仕事は子どもをみるだけと
思っていたが、保育の質だけでは無く、指針に基づき日々子どもの事、保護者に対する支援と、保育所が努力している事を、力強く思った。保育者で無い私は、ただこれから沢山の物を口にするであろう孫が、楽しく食事出来る様、「～だよ～、美味しいね」と声かけして、食べる喜びをせめて与えられたらなと思う。



今回の研修では、保育指針の改定についてわかりやすくお話し
をして頂きました。保育の中では、子どもたちの「これもしたい」
「ワクワクしたり」「楽しいと思ったり」、子どもたちが主体的でいろいろな
糸を馬便ができるようにしていく事が大切だと改めて感じました。
環境作りや、タイミング、言葉かけや玩具の数でも遊び方が様々
なのでこれからの保育の中では、「こうしたら良かった」などの保育の見直し
もしていち、よりよい保育ができるようにしていきたいと思います。
10の姿の内容では、保育計画を作る時にはとても参考になると
思い、改めて10の姿の内容を確認することができました。
ワークショップでは、動画や写真も見ながら10の姿の
内容と照らし合わせることでわかりやすく理解することができました。
また、他の先生方の意見もまかせて頂きこの考え、視点から
みる保育もあるのだと思うところもあり、勉強になりました。
ありがとうございました。



子育てひろばの感想

保育所保育指針改定について、どんなふうに変わったのかや何が加えられたかほびしう説明し頂き、わかりやすかったです。子どもたちが主体的にかかわれるものや場を保育者が整えることの大切さを改めて感じました。又、変わってはいないものについても、「基本があること」という言葉通り、基礎を培ってこそ保育であり知ることができると10の姿が具体的に書かれており、小学校との一貫性を重視したこと、長い目で見る大切さについても感じることがたくさんありました。10の姿を3つの視点で改めて見ると、人と自分の感じ方の違いを捉え、角度別の視野を広げることができると日々の保育で「おもしろい」と感じながらも、10の姿にあてはめることができなかったため、このような場でイセ者の意見と一緒に考えることができてよかったです。貴重なお話をしてくいただきありがとうございます。



「保育所保育指針改訂について」

子育てひろばの講演会では、大変貴重な勉強をさせていただきまして。改訂から一年を迎えようとするこの時期に、改めて、保育・教育についての見方を勉強するにふり、これからの子ども達の育みを具守る方法を考えたいとおぼつかうございました。

ワークショップでは、10の姿を事例(写真やビデオ)をあげわかりやすくお話をしてくださり、自分なりに理解し実践に活用できようと思いました。特に、10の姿の見方として、子ども一人一人が違ふと同時に、職員間でも見方が違ふという点には、改めて思い考えさせられました。

見方、考え方が違ふからこそ、話し合うことが大切であり、そこからまたスタートする点、大切な子どもの成長を育んでいくために、思いこみや、決め事は決してしてはならないことを心に止め、

これからも保育の職をやっていきたいと思います。

この度は講演会に参加させていただき有難うございました。



保育所保育指針改定について

武蔵野大学：箕輪潤子先生の講演について

- ・今まで何回か、保育指針改定についての学習会がありましたが、よく分かりませんでした。今回の講演で少し理解できたように思います。
- ・活字のみの講演ではなく、写真や動画を活用しての説明があり、より具体的だったと感じました。
- ・その写真や動画を見ながら各自が10の姿を捉え、グループで討議する事で、誰が正しいとか間違っているとかではなく、個々の感じ方や捉え方、また、見る視点により異なってくることを、共通理解できたと思います。
指導者や助言者が、これが好きとか、そうではないでしょうではなく、それぞれが捉えた10の姿をふまえて、話し合うことの大切さを学びました。
そうしたことが、職員の質の向上に繋がるのではないかと思いました。
- ・日々の保育の中で、職員が共通理解できていない事もあると思われるので、どう進めて行くかも大切だと感じました。
- ・各クラスの子ども一人一人について、話し合う時間がもう少し必要ではないかと感じました。



「保育所保育指針改訂について」 箕輪潤子先生のお話を聴いて

日本の幼児教育では、「心情・意欲・態度」を通して、非認知能力を育ててきた。意欲、興味、関心、の育ちは重視されてきた。人と協力したり思いやりったりすることも大切にされてきたが、粘り強さ・試行錯誤・挑戦する力には課題がある。課題は、考える力。自分自身の目当てを持ち、意欲を持って粘り強く取り組む力が足りない。とまとめて話していただきよく理解できた。次に、保育所保育指針の基本的な考え方の中で、特に各園での創意や裁量が大切である。子どもにとって、一番良いとはという事である。とお話いただいた。

まさしく私たち法人の理念であり、日々大切にしているところであるが、各園の創意、裁量がポイントであると話され、一層責任を痛感し重く受け止めた。そこで、保育の質の向上は、評価の結果を踏まえた保育の内容等の改善。保育の質の向上に向けた全職員の共通理解である。プロセスを明確化する。とお話いただいた後で具体的なワークをしていただき、ヒントを得た。写真を用いて、「幼児の終わりまでに育て欲しい姿」の10の姿を視点にして、子どもの育ちを捉えてみると、子どもの経験・育ちを読み取ることができた。

この経験を踏まえ、今後に経験して欲しいことが浮かぶ。それには、どんな環境が必要かが分かる。ついつい、保育内容の改善、共通理解というと構えてしまい肩に力が入り、なかなか進まないが、今回のワークのような進め方であると

取り組みやすいので、是非実行したい。そして、まだまだ豊かな環境ではないかと反省するところが見つかった。

今後また、初心にかえり研鑽しなければと振り返るよい機会をいただいた。ありがとうございました。



箕輪 潤子先生の講演会及びワークショップに参加して。(感想)

これまで私は、「10の姿」について“目指すべき”という言葉に惑わされて到達目標にしてしまっていました。箕輪先生のおっしゃられた「子ども理解」の捉え方でいくと小学校教諭の側＝どこまで到達しているか？という目線だったのではないかと気づきました。もっと子どもたちの考えや思いを見つめていくこと、遊びの中で見られる姿がどのような経験や活動の積み重ねから得られたものなのかを知ることが必要だと思いました。活動計画を作成する際も、つい「こういうことができていない」「足りない」という考えが先走り、理想とする姿になるよう誘導するような内容・環境構成が多かったように思います。もっと子どもたち自身が考え、発展させていけるような遊びを意識し、きちんと振り返ってこうと反省しました。子どもたちの将来が明るいものになるよう、非認知能力を育てることが重要だと改めて学びました。

ワークショップでは、実際に検証することで、子どもの一つの行動が「これは自立心」「こちらは協同性」などとはっきり区別されるわけではなく、複数の姿が重なり合っていること、保育者の主観によってその評価が異なることが具体的にわかりました。

「枠に当てはめるためではなく、“今”子どもがどういう姿なのかを捉える」それを「環境構成へつなげる」ためには、保育者間でしっかりと協議し、連携していきたいと思いました。



参加させていただけ、ありがとうございました。

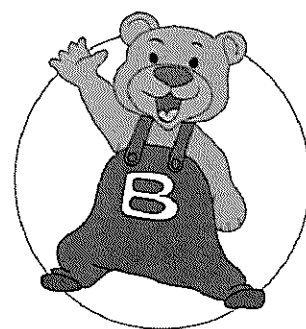
認定子ども園 ベアーズ

箕輪 潤子先生の講演会を終えて

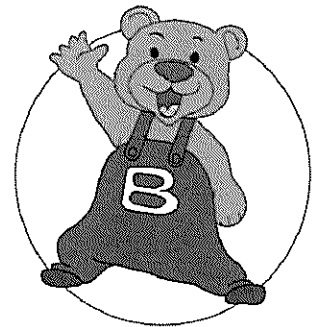
保育指針改定についてお話をさせて頂き、子どもの将来を見据えたうえで、この時期に何を育てなければいけないのかを考慮し、意識的に保育をしていくことの重要性を感じました。乳幼児期が、人間形成にとって重要な時期であることを踏まえ、子どもたちの生活の安定を図りながら、自分ではどうもできないことを尊重し、温かく見守るとともに、受容的・応答的に関わっていきたいと思います。

またグループ討議では、動画や写真を通し、10の姿を視点にして、子どもの育ちを捉えましたが、色々の意見を聞くことができたのが良かったです。目指すべき方向性を共有することができたと感じました。そして、子どもたちがやってみようと思う環境作りが大切だと改めて感じました。

子どもの姿を捉え、より良い環境作り、保育者の関わり方を工夫していきたいと思います。



保育所保育指針の改定についての講演会を聞いて、
保育者としての仕事を改めて考えた。..
今、自分が保育している子どもたちが、複雑にならざるを得ないであろう
25年後の社会を作っていく子どもたちであることに深く
考えているなかで、"AI"が進んでいく中で、"人間"に
できることが大切になってくる。認知能力、非認知能力を
しっかり育てられるよう、関わっていくことに。
ワークショップでは、普段の何気ない光景の写真から
「幼児期の終わりがまだに育ってほしいわ」や、「子どもたちが
何を思っているのか」「保育者はどう関わっているのか」などを
職員同士で話し合ったり、色々な考えがあり、面白かった。
自分が思っていることを他の方から聞くことができた。
話し合ったり意見交換を日々の保育の中でもしていきたい。
より良い保育ができるようにしていきたい。
沢山のことを吸収する時期の子どもたちの発見や思いを
しっかりと受け入れ、見守り、手伝っていく、日々
1日を大切に保育していきたいと感じた。



箕輪先生の講演を聞いて。

改定によって様々なことが変わってっていくが、先生の話を聞いて、「させないといけなく」「しないといけなく」ということではなく、際々な経験をしたり、遊びの中で、子どもたちを育てていくということが大切だということ。しかし逆に保育者としての質も問われるため、責任ある仕事だと改めて考えさせられました。

ワークショップでは、一枚の写真から、色々な事が見て取れ、それもまた、保育者一人一人、見る姿に違いがあり、色々な考え、見る目があると感じ、保育者の思いは、統一しておかなければならない所もあるが、色々な見る目もあり、それだけ、たくさんのおいがあるのだから、大変だが、楽しいことのひとつでもあると感じた。



<子育てひろば21 講演会 感想>

今回の講演は 保育所保育指針の改定についてだった。

その中で 社会情動的スキル(非認知能力)の大切さをとて感じた。
取で測定できる能力では測れない 学びに向かう力や姿勢の大切さを重視していること。自分の自覚を採り 意欲的に粘り強く取り組む姿勢など 数字では表わせない大切なことを盛り込んであるということだった。

認知能力と非認知能力は 絡み合って伸びるものだからということも改めて 考えるようになった。

私、幼児期のおわりまでに育てほしい10の姿については、自分の中でエカハ 遠いをしていた。先生は、それが到達目標ではない。ということも 何度も 言っておられ、今の子どもたちの幼時を考えると 小学校へとつなげていくことを大切 にしてほしいということだった。10の姿についても、1つの姿から見えるものを 広げて いく。考えていく。ということをしてほしいと言っておられ、後半の ワークショップでは 写真や映像を見て 実際にやってみることで、別の先生方の ちがう物の見方を 感じることもできた。

子どもたちの姿で10の姿を照らし合わせ、振り返り 考えていくことの大切さを 実感できた。とても良い講 演会だった。ありがとうございました。



講演会の感想

平成27年に、幼保連携型認定こども園教育 保育要領が施行され、今日の保育所保育指針改定により、認定こども園、幼稚園、保育所の整合性を図るために、内容を改めた部分について、とても詳しくわかりやすく教えて頂き、すん、と内容が入ってしまいました。教育・保育要領の解説を語るだけでは難しく、時間がかかることがありましたが、今回教えて頂いた、乳児の3つの視点から子どもの発達を捉えるイメージ図に合わせていたり、乳児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を常に考え、それをベースにしてどのような姿が育っているか確認し、育ちがうまくなるためには、どのような環境や経験が必要かということを考えるために活用していきたいと思っております。ワークショップでは、他の方の意見をたくさん聞くことができ、貴重な体験となりました。同じ子どもの姿でも、大人の捉え方で全然違うこともわかったので、職員同士でも、10の姿などを活用し、意見交換をする時間を設け、子ども理解の視点を広げていきたいと思っております。



「保育所保育指針 改定について」講演、ワークショップあり。

改定された理由として、「今まで大切にしてきたことを更に大切にしていきたいため」というのが印象的でした。今まで大切にしていたベアーズでの保育を更に大切にしていきたいために、指針を理解していく必要性があることも感じました。今回の講演の中から、入籍の計画は、各保育所の理念や方針に基づいて、子どもの発達に即して保育のねらいから全体的な計画が示されていること、^{それから}全体的な計画に基づいて、具体的な計画が作成されること、を学びました。入籍のねらいを考える時、今までは、子どもの姿や発達を、頭に浮かべ、計画していましたが、個人の計画の前に、全体の計画も、再度確認していきたいと思います。ワークショップでは、乳児の3つの視点から、子どもの発達を捉える必要性、幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿を視点にした子どもの育ちを捉える必要性を学びました。園だからこそ出会う、人的、物的環境、自然事象から、「わくわく」や「感じる」ことができるということでした。10の姿を頭に置きながら、写真や動画を見ることで、子どもの育ちを確認できるおもしろさが分かり、日々の保育の見かたや実践に生かせるように努めていきたいと思っています。



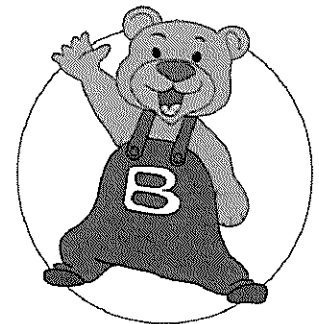
箕輪先生講演会感想

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」についていろいろ学んだ。今回は講演会のあとワークショップで動画と写真から、まず自分でどの姿になるのか考え、それから小グループで話をすると、他の先生と意見が違い、いろいろな意見があると改めて思った。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、あくまでも到達目標ではなく、確認していくものである。また、子どもたちの活動を通して、どのように資質・能力の3つの柱を踏まえ、具体的な姿と示されている。

この幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」を考えながら、指導計画や、月案などを考えていかなければならないと思ったとともに、子どもたちの姿がよく見えてくると感じた。

とてもわかりやすく箕輪先生がお話して下さり、ワークショップで考えるとても良い機会となりました。また、ぜひ箕輪先生のお話を聞かせていただきたいと思いました。ありがとうございました。



保育所保育指針改定について

講師 箕輪潤子氏

今回、保育所保育指針改定についての話を聴かせていただき、より理解を深めていくことができました。

指針の策定の区分別が中心となっているので、各国独自で創意工夫していくことや、保育内容の評価として改善していくこと、保育の質の向上につながる。そのためには、保育者自身も質の向上に向けて自己研鑽していく必要がある。と痛感しました。

また、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」に近づけるよう

色んな遊びを経験させ、その積み重ねの上で育てていくことも

大切だと実感。そのために居心地の良い環境を整えることも保育者の重要な役割だと思いました。

ワークショップでは10の姿を活用していく経験を通して、子どもたちの育ていざあろう姿を具体的に考えることができ、良かったです。

研修会に参加させていただきまして、ありがとうございました。



「保育所保育指針改訂について」箕輪 潤子先生の講演の感想

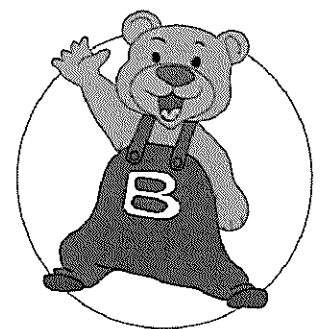
0～2才の保育所の利用者の数が増加していること
に気づいて早いうちから他者の関与が増えている
ことに感じました。

採集の仕組みの姿を想像して子どもたちを育てること
に気づくことも大変に難しく感じました。

それと、-のあそびに對此の対応など改めて
かいてみる等を見て勉強したいと感じました。



保育指針の改定内容は大きな改定ではなく、ベアーズで当たり前
に行われてきた保育内容を強張るものだと感じた。



子育てひろばの講演会を受けて、
次にのは、働く上でおは保育を行って
いく上で個人の質の向上だけでなく、おは
園全体が向上していくことが大切
だと思ひました。常に自分が行ってい
る保育がどうなのか自己評価し、改善
のための課題を把握していくことで
課題に気づいていくと感ひました。
おは、子どもたちと関わる中で年齢の
ちがひにより支援の仕方をおは理解して
おくことが必要だと思ひました。
そして、社会的発達に関する視、精神的
発達に関する視点、健やかに伸び伸び
と育つという三つの視点で改めて促してい
くことで見ん方や考え方も変わり、おはアッポ
にたよがると思ひました。
職員の資質向上が
より良い保育にたよがるこ
いと感じました。



箕輪先生講演会感想

保育所保育指針改定について話を聞いていただき、保育の中での活用例や実践例などとてもわかりやすかったです。

『知識及び技能の基礎』 『思考力、判断力、表現力等の基礎』 『学びに向かう力、人間性等』のこれらを単体で育てるのではなく、一体的に育てていくことによりそれぞれを高めていくことができるのだなということが改めてわかりました。

そして、この学んだことをその後で生活で活かしていく、そこからまた学び、その先に活かしていくというように連鎖していくようにしていかなければいけないのだなと思いました。

子どもが自分でしようとしている気持ちを尊重し、見守りながら出来たことはしっかりほめるということを心がけていきたいです。

ワークショップでは、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を中心にやっていき、それぞれ考えが違っていておもしろいかなと思いました。思っていることを普段から伝え合うことはとても

大切だと思い、常に職員みんなで連携をとれるようにしていきたいと思いました。

講演会に参加させていただきありがとうございました。



今回講演会に参加させていた

保育所保育指針の改定について学んだ。

7-7マップがとてもなく立ったと感じた。

子どもに育て欲しい姿を

改めて見直したり、考えたりする良い

機会となった。

普段あまり考える事ができなかった部分か

ら子ども姿を見る事ができた。

保育というものが人間にできる仕事だ

という言葉は、考えさせられる事とも感じた。



『保能研保育指針改訂について』 箕輪先生の講演会 の感想。

前半の講演で学んだことを後半のワークショップで子どもの姿を見て今日の取り組みが育っているのか“育ってほしい10の姿”の視点で考えることができた。新たな発見もあり、子どもの姿をしっかりと見とることの大切さ、そして、他の先生と話し合うことで、いろいろな先生も考えや視点も知ることができ、新しい学びがとまらなくなった。“育ってほしい10の姿”にあてはめて子どもの様子や育ちをみていく方法も分かり、明日からの保育に生かしていきたいと思えます。そして、今から子どもの育ちをとらえて、今から子どもたちがどの育ちに育ってほしいか、保育者の願いも含め、保育環境も工夫し、整えていきたいと思いました。日々の保育が将来の子どもたちの土台とつながっていることを実感し、今日、学んだことを生かしていきたいと思えます。とても分かりやすくお話しばかりで、楽しく進めさせて頂きました。ありがとうございました。



園内研修では、保育所保育指針改定についてやグループに分かれて写真をみながらの姿について話し合い学びました。

保育所保育指針改定については、養言護に関わるねらい及び内容として、生命の保持と小児者の安定がある。生命の保持は、子どもが快適に生活できるようにすること、小児者の安定は、子どもたちが安心感を持って過ごせるように、温かい関わりや食事の時に“美味しいね”の言葉、“食べ物の名前”を伝えることで養言護の関わりであり教育であることを学んだ。0歳児から5歳児までの保育に関わるねらいや育てほし姿についても学んだ。

グループワークでは、写真や動画(0歳児や以上児)をみて、身近な人と気持ちを通じ合う、身近なものに関わり感性が育つ、健やかに伸び伸び育つことの3つの視点から考えていくことは非常に感じた。

写真から、一人一人の見方や考え方を話し合いの中でまぐことかでき、学ぶことかできた。



子育てひろば21講演会を聴いて

日時 平成31年2月16日

私は給食職員なので、子供たちと密に接する事は

少ないのですが、今回の講演会を聴き、

子供たちに接する時、または我が子に対しても

ためになる事を勉強させていただきました。

給食職員として、特に食育の面で子供たちとの

関わりを持てたらいいなと思いました。

